

第4章 民家園行事協力 目次

| | | |
|-------|------------------------|------|
| 4-1 | 春 | |
| 4-1-1 | 春のライトアップ | 4-1 |
| 4-1-2 | お茶作り | 4-4 |
| 4-2 | 夏 | |
| 4-2-1 | 納涼民家園 | 4-5 |
| 4-2-2 | 民家園防災デー | 4-6 |
| 4-3 | 秋 | |
| 4-3-1 | 五箇山がやってくる | 4-7 |
| 4-3-2 | 船越の舞台公開 | 4-8 |
| 4-3-3 | お月見をしよう | 4-9 |
| 4-3-4 | 実演「昔の大工仕事」と体験「子ども大工入門」 | 4-10 |
| 4-4 | 冬 | |
| 4-4-1 | 冬休みの火焚き | 4-11 |
| 4-4-2 | お正月を遊ぶ | 4-11 |
| 4-5 | 年中行事展示 | 4-12 |
| 4-6 | 昔話 | 4-20 |

第4章 民家園行事協力

4-1 春

4-1-1 平成27(2015)年春のライトアップ

2015年の春のライトアップは、3月28日(土)、29日(日)の二日間行われ、修復なった鈴木家も加え、原家・鈴木家・井岡家・佐地家・三澤家・水車小屋・佐々木家・江向家・山田家・山下家・野原家がライトアップされました。

(下は修復なった鈴木家)



(来園者と交流)



炉端の会も、井岡家・三澤家・佐々木家・江向家・山田家・野原家で火焚きの行事協力をを行い、来園者と交流しました。また、28日は地元の初山の獅子舞が披露され、29日は遠野の

昔話が披露されました。

そして初めての試みとして、28日には原家で金曜班の川島康夫さんによる「篠笛」のミニコンサートも実施されました。(別途掲載)

市長がライトアップされた夜の民家園に来園 2015年春

川崎市の福田紀彦市長が、29日夕方来園され木下園長と炉端の会野田会長の案内で、ライトアップされた夜の民家園を散策されました。

野田会長の言葉を借りれば、お世辞ではなく本心で民家園、炉端の会を気に入ってくださったようです。あちこちで市長と分かれると記念写真の要望に気安く応えていて、気さくな市長として人気があったとの事でした。

また、当日の夜にはご自身のブログに体験をアップしていただき、炉端の会にその転載もご許可いただきました。(以下は、そのブログの内容です。)



福田 のりひこ

3月29日 22:17 ·

さて、ここは何処でしょう???

世界遺産の白川郷か…? いいえ、川崎市日本民家園です。



昨年の紅葉の時期に続き、桜にあわせ、この週末は民家園の重要文化財がライトアップされました。各家では「炉端の会」のボランティアさんが火を焚いてお客さんをもてなし、ある古民家では囲炉裏を囲みながら語り手さんの昔話に皆さんが耳を傾けています。

この素晴らしい川崎市民の宝物をもっともっと多くの皆さんに観て、体感して頂きたいです。そのための工夫を関係者の皆さんと考えていきたいと

思います。

生田緑地には、世界最高のプラネタリウムや岡本太郎美術館など魅力がいっぱい。まだ行ったことがない方は是非!

川島康夫さんによる「篠笛」のミニコンサート（於 原家 2015年3月28日）



ライトアップのこの日、「篠笛」のコンサートが行われたのは、ある偶然がきっかけでした。たまたま、川島さんがリュックに「篠笛」をさしているのを「和太鼓」を趣味として楽しんでいる古民家カフェの

スタッフが見つけた声をかけました。何かの時に篠笛の演奏が出来ないか、園を巻き込んで考えた結果、ほどなくして行われる「民家園春のライトアップ」の時に、原家でミニコンサートを行う事になりました。

曲目は、篠笛の特色を活かした「さくら櫻散りぬるを」「笛吹童子幻想曲」「ダニーボーイ」「メダカの学校 むかし話」「昴」の5曲を川島さんが選定し、20分程度のステージをなか30分をあけて2ステージを行うことになりました。

当日は各ステージ10名以上の方々が川島さんを囲んで、素敵な音色に魅了されていました。営業中の古民家カフェのお客様にももちろんその演奏を楽しんでいただくことができ、お客様からは「夜の古民家の雰囲気をもっと盛り上げる素敵な時間でした」との感想をいただきました。

（編集委員 10期 土曜 水野）

4-1-2

お茶作り

お茶づくりには、お茶の木の年間を通しての手入れ、4月～5月頃の天候による茶葉の生育状況、茶摘みした茶葉のセイロの蒸し加減、ホイロの火加減、手もみなどに長年の経験とカンを必要とします。民家園でのお茶作りは、実際に登戸でお茶作りをしていた経験がある民技会蓬田さんの実地指導を受けて、登戸でやっていた作り方をもとにして平成17（2005）年から始めました。

5月 八十八夜を過ぎた頃、岩澤家と北村家のお茶の木から若葉を摘み取ります。摘み取った茶葉からごみを取り除き、茶葉を選別してセイロで蒸します。蒸してやわらかくなった茶葉はホイロの上で手もみにして緑茶に仕上げます。また蒸した茶葉を囲炉裏にかけた釜で炒り上げてほうじ茶も作ります。そして出来上がった新茶の試飲をして、今年の出来具合を品評します。

お茶作り実演は、広報して環境整備チームと有志により実施しています。

岩澤家の地元はお茶の産地で、民家園に移築された岩澤家の周囲に一行ではあるがお茶の木を植えたのは産地を意識してのこと。（野呂瀬さん談）



平成20年5月9日 蒸したお茶葉の粗熱をとる作業

（編集委員 9期 火曜 吉田）

4-2 夏

4-2-1

納涼民家園

毎年夏休み中の8月の日曜日に、生田緑地の豊かな自然に囲まれた3つの博物館を中心に行われる一大イベントが「生田緑地サマーミュージアム」です。

日本民家園では、この日にあわせ「納涼民家園」を行います。炉端の会も全面的に協力・参加しています。

毎年多くの子供さんや家族連れで大賑わいとなりますが、過去の思い出やエピソードを会員の方に伺ってみました。

「ごろ寝体験」 寝た際の畳やござの感触から人気があり、炉端の会員が親子で川の字になりませんか？と声をかけると沢山のお客様が幸せな感じでゆったりと休んでいかれたそうです。また、時には熟睡されるお客さまもおられ最長は2時間のケースもあったとか。

「蚊帳体験」 網戸の時代に育ち蚊帳をしらないちびっ子がなんだろうと集合。炉端の会員が蚊帳に出入りする方法などを伝授すると大喜びで蚊帳に入り、しばらくは出てこないなど大うけでした。

「水鉄砲体験・打ち水体験」 真夏の暑さにピッタリの催しもので、衣服が濡れるのにもかまわずちびっ子が大勢熱中します。ある年は途中で夕立になったのですが、みな構わず遊び続けていたそうです。



ごろ寝体験



蚊帳体験



水鉄砲体験



打ち水体験

このほかにも楽しい体験が沢山あり、今年平成27(2015)年は8月23日(日)に予定されていますので楽しい一日になるよう協力したいと思います。

(編集委員 13期 金曜 布野)

旧太田家は平成2（1990）年7月29日、裏山から打ち上げられた花火が原因の火災で焼損しましたが、幸いなことに主要な建築部材は焼け残りました。再用不能な柱や梁は組み立て状態で、その他の部材は分解した状態で収蔵庫（焼損小屋）内に保存しています。写真はその内部です。



当園では毎年7月末、11時30分から12時までと13時30分から14時までの2回保存材収蔵庫内部の一般公開と、ビジターセンターの2階で10時30分から11時30分まで、旧太田家焼損復旧工事記録の上映を行っていました。これらの行事に「炉端の会」は保存材収蔵庫内部の一般公開では来客のガイドを、また焼損復旧工事記録の上映では受付を行って園に協力しています。

平成25（2013）年度までは1月26日の「文化財防火デー」に実施していましたが、翌年度から日程を7月末に移しました。因みに「文化財防火デー」は昭和24（1949）年1月26日、現存する世界最古の木造建造物である「法隆寺の金堂」が炎上し、壁画が焼損したことに基づいて制定されました。

旧太田家の焼損材の組立保存は、焼損文化財（建築）保存としては日本では法隆寺金堂に次いで2例目との事です。

また以下は平成24（2012）年1月26日に作田家で行われた消防訓練の写真です。



（編集委員 11期 木曜 長谷川）

4-3 秋

4-3-1

五箇山がやってくる

旧江向家・旧山田家・旧野原家のあった五箇山地方の観光・物産展と五箇山民謡（「こきりこ唄」）公演が園と南砺市観光協会との共催で、平成23（2011）年から毎年10月中旬の土・日曜日の両日に行われています。

物産展は野原家で、観光展は山田家で、五箇山民謡公演は佐々木家の庭（雨天の場合はザシキ）で行われ、平成23年と24年は20時まで、25年以降は通常の床上公開時間内に行われています。

この行事に「炉端の会」は平成23・24年宿場の村、信越の村の6棟の火焚きを20時まで行い、平成25年以降は信越の村4棟の火焚きを通常の床上公開時間に行っています。1日3回の民謡公演では、庭にゴザを敷くなどの会場準備、観客の整理、公演終了後の片付けなどの協力を行っています。



こきりこ踊り



こきりこ踊りの出演者と歓談する来園者

（編集委員 11期 木曜 長谷川）

船越の舞台は通常公開していませんが、平成17(2005)年から9月中旬～10月中旬の約1ヶ月間の土・日曜日と祝日に、平成26(2014)年からはさらに5月中旬～6月中旬までの約1ヶ月間の土・日曜日も床上公開しています。この行事に「炉端の会」は全面的に協力し、公開日のガイド担当は各曜日班に割り当てられており、公開日には数名が参加しています。

春期・秋期の公開に先立って毎年園学芸員により「船越の舞台解説ボランティアマニュアル」によって公開の事前準備、退出時の処置や見学者への対応などの現場説明が行われています。また、見学者へのガイド内容の説明も現場で丁寧に行われますので、安心して対応できます。

公開日の一日の行動は次のようです。受付で鍵と日誌・カウンター・トランシーバーを受け取り10時に現場に集合し、公開準備を始めます。まず照明をつけ、正面の戸を開け、奈落口の蓋を開け、観覧コースに案内札を置き、入口にスリッパ・傘立てなどを置き、床上を掃き掃除します。舞台前面の床上に舞台の旧所在地の地図や移築前の写真、民家園まつりで行われている歌舞伎公演の写真などを展示して見学者を待ちます。「炉端の会」ガイドは見学者の案内と説明のために、舞台に2～3名、廻り舞台のメカニズムの説明のため奈落到1名、舞台建物の外に1～2名と配置につきます。ガイドは舞台建物の歴史、廻り舞台や奈落・花道・棧・棚・出語りなどの舞台設備と、舞台の裏にある興行記念額・銘板、襖・襖箱、幕箱などの資料について説明します。また11月3日の「民家園まつり」には有料で歌舞伎公演を行うことをPRしています。天気のよい日には多数の見学者が来られ、特に午後は対応に忙しくなります。

15時15分頃より舞台正面の戸を閉め始め、園より指示されている退出時の処置を行い日誌の記入をして、15時30分頃に退出して一日が終わります。



舞台の全面を開いて来客に説明



江戸時代の舞台装置の説明

(編集委員 11期 木曜 長谷川)

4-3-3

お月見をしよう

毎年 十五夜（中秋の名月、旧暦8月15日）に近い週末に、北村家で子どもたちと一緒にお月見団子をつくり、お月見の飾りつけをします。子どもたちには米を石臼で引く米粉つくりと、米粉にお湯を加えこね、かまどの大釜で茹で、さらに団子の形にしてセイロで蒸しあげるまでの行程を体験してもらいます。そして、北村家の庭でみたらしやきなこでお団子を試食し、お月見をします（天候に左右されますが）。その後、科学館に移動してプラネタリウムと屋上の望遠鏡で月の観察をします。

お月見の飾りに使う里芋は、北村家前の畑で環境・整備チームが育てた里芋を実際に土から掘り出す様子も見てもらっています。

平成24（2012）年までは、お月見団子だけではなく、かまどの薪で炊いたご飯でおにぎりをつくり、野菜たくさんのけんちん汁も作っていました。

昨年平成26（2014）年は、旧暦の関係で十五夜がまだ残暑の厳しい時期にあたり、十三夜（旧暦9月13日）に変更してこの行事を行いました。

この行事は、炉端の会を中心に実行委員会を結成して実施しています。



茹でる前の作業



飾り付け完了

（編集委員 9期 火曜 吉田）

4-3-4 実演「昔の大工仕事」と体験「子ども大工入門」

10月頃 民家づくりに欠かせない大工仕事・左官仕事・縄縛りの実演と体験が実施されますが、炉端の会では受付の手伝いをします。

実演は実際に園内の立木を伐り、伐った木の皮むき、チョウナ削りなどで、体験は子どもが泥壁塗りや縄縛り、年によっては茅葺き、丸太切り、かんながけ、小屋組立、プランター作りをします。混んでいなければ大人の方も体験できます。



- (上 生木を切り出す)
- (中 倒した木の皮をむき
マサカリで荒取り、
チョウナで平らに加工)
- (下 土壁体験)



(編集委員 9期 火曜 吉田)

4-4 冬

4-4-1

冬休みの火焚き

平成24(2012)年より冬休み期間中の12月第3週の1週間、各曜日班や同期の人たちによって床上公開が行われています。活動内容は通常の床上公開活動と同様です。活動終了後、忘年会などの懇親会が行われ、班や同期メンバーの親交を深めています。冬休み中ですが、親交を目的に活発に活動が行われているようです。

(編集委員 11期 木曜 長谷川)

4-4-2

お正月を遊ぶ

1月4日(または4日が月曜の時は5日)には、民家園では新年を祝う様々な催しが行われます。炉端の会はお正月遊びコーナーのお手伝いをしています。コマ回し、ベーゴマ、羽根つき、福笑い、宝引き、折り紙など、今ではあまり見られなくなっている昔あそびを子どもたちに体験してもらう。またこの日囀り炉裏の火焚きの他、火鉢にも炭を入れて、餅を焼いて子どもたちに見せたりもします。

平成26(2014)年までは、山下家前にて子どもたちの餅つき体験と、当日入園者に配布するあんこ餅、きなこ餅づくりのお手伝いをしました。平成27(2015)年正月は甘酒作りのお手伝いをしました。

この行事は、炉端の会を中心に実行委員会を結成して実施しています。



ベーゴマ指導

(編集委員 9期 火曜 吉田)

年中行事の展示件数は1月の「正月・しめ飾り」から12月の「ヨウカゾウ」まで16件ありますが、「小正月飾り」・「七夕」・「原家夏座敷」・「雪囲い」の4件を除いて、それらの飾り付けと撤去は展示チームが行っています（第3章チーム活動も参照）。

年中行事は代表的な日本古来のしきたりと季節の行事を再現したものです。これらの年中行事の展示を手伝うことによって、日本の農村で実際に行われていたしきたりや行事に触れることができることは、貴重な体験になっています。

各年中行事で使用する材料・道具の所在場所や、飾り付け方法の概要は園より配布された冊子「年中行事」や園所有の写真に示されています。飾り付け作業は園職員の指導と冊子に従って行っていますが、分からないところは調べたり、特に「ひな祭り」のひな段飾り、「五月飾り」の武者人形飾り、「盆行事」の砂盛りは複雑な作業が多いので、作業手順書を作ったりしています。

参加人員は、人手のかかる「正月・しめ飾り」、「ひな飾り」、「五月飾り」、「盆行事」は十数人、その他の行事は十人程度で、男女それぞれ出来る仕事を分担して行っています。

4-5-1

正月・しめ飾り

(1) 正月・しめ飾り

「正月・しめ飾り」は新しい年を迎えるための準備をする行事で、12月中旬から1月上旬まで北村家と作田家でそれらの展示をしています。

部品の数と細かい作業が多いため時間がかかるので、多くの人手が必要です。北村家の「正月飾り」は5つの神様の神棚と仏壇・床の間にしめ縄、しめ飾り、榊と松の束、南天、お供え餅などを供えます。その他に、しめ飾りを表と裏の出入り口に、餅つき用具を土間とヒロマに、土間に面した柱に煤払いの篠竹を飾ります。

作田家の「ししまど」に12月中旬から1月上旬まで、東北地方から九州地方までの各地のしめ飾り20点以上を展示します。しめ飾りにはウラジロ、ユズリ葉、ダイダイ、シメを付けますが、ウラジロは近くの林に自生するシダで代用し、ダイダイは北村家前庭のミカンで代用し、ユズリ葉は北村家屋敷内で調達し、それらの取り付けに苦労しています。また、しめ飾りの取り付け位置も写真ではよく分からず、その位置決めに毎年苦労しています。正月飾りは1月上旬、園で



正月飾り・しめ飾り



小正月飾り

撤去しています。

(2) ヨウカゾウ飾りの撤去

「正月・しめ飾り」の飾り付けを行った日、北村家前庭に12月上旬園が立てた「ヨウカゾウ飾り」のかごの撤去を行っています。竹竿を倒し、先端に取り付けてあるかごを竹竿より外し、竹竿は北村家裏の竿置場に収納します。

4-5-2 節分・ヨウカゾウ

(1) 節分飾り

「節分」は邪気を払うための豆まきが行われる行事で、1月下旬から2月上旬まで北村家で「節分飾り」を展示しています。

いろいろの横に餅のし板を置き、その上に5合升に大豆を入れて置きます。また、いろいろに鍋を吊るし灰の上に鉄板を置き、ナスの枯れ枝と豆がらを置きます。表口と裏口の柱にイワシの頭とヒイラギを付けた「蘇民将来子孫門也」と書いてある札を取り付けます。



節分飾り

(2) ヨウカゾウ

川崎では2月8日と12月8日を「ヨウカゾウ」と呼び、妖怪一つ目小僧を退散させるために目の多いカゴを家の前に高く掲げました。1月下旬から2月上旬まで北村家前庭で展示しています。長さ約4mの太い竹竿の先に粗目かごを取り付け、前庭の所定場所にある穴に竹竿を入れて固定します。



ヨウカゾウ飾り

(3) 小正月飾りの撤去

「節分・ヨウカゾウ」の飾り付けを行った日、1月中旬に民具製作技術保存会が飾り付けた「小正月飾り」を撤去します。北村家の神棚、仏壇に飾ってあるマユダマ10本、アワボ・ヒエボ15本、ケズリカケ5本を取り下げます。マユダマとモノヅクリの団子は枝より取り外しごみとして捨てます。モノヅクリ、マユダマ、アワボ・ヒエボ、ケズリカケ、タタキボウ、スイジンサマの木・竹は30cm程度に切って薪置き場に置きます。

4-5-3 ひな祭り

(1) ひな人形飾り

「ひな祭り」は女子の健やかな成長と、幸いを祈る行事で、2月中旬から3月上旬まで原家と北村家で「ひな人形」を飾り展示しています。

ひな段の各材料には番号や印が付いているので、それに従って7段の棚段を組み立てます。段に緋毛氈を左右きちんと揃え画鋏で止めますが、この作業に意外と時間がかかります。人形とその付属品は各々紙で包まれているので、壊さないように丁寧に解包します。人形は各付属品を付けて組み立てますが、部品が細かく壊れ易いので細心の注意を払って取り扱っています。部品の数が多く、なかなか探せない場合もあるので、時間がかかっています。男性は主に棚段の組み立てを、女性は主に人形の組み立てを行うように作業を分担しています。2ヶ所のひな段の飾り付けには約2時間か



ひな人形飾り付け作業



ひな人形飾り

かります。春が近づいたと感じるときです。

(2) 節分・ヨウカゾウ飾りの撤去

「ひな人形飾り」を行った日、北村家の前庭に1月下旬に立てた「ヨウカゾウ飾り」のかごを撤去しています。方法は12月中旬に撤去した「12月ヨウカゾウ」と同じです。「節分飾り」の豆、升とヒイラギとイワシの頭、のし板は所定場所で保管します。

4-5-4

蚕影山縁日

(1) 蚕影山縁日飾り

蚕影山祠堂の縁日は3月23日(旧暦2月23日)でした。蚕の神様への感謝と豊作を願うこのお祭りを再現するため毎年3月中旬から下旬に蚕影山祠堂で「縁日飾り」の展示を行っています。

まず、覆堂内部と外部を掃除します。次に、丸い形とマユの形をした紅白の団子を葉の付いたカシの木の枝に挿しこれをお堂の上下、左右に飾ります。また、数個のマユを糸で縛って結び、覆堂の格子に吊るします。3個の



蚕影山縁日飾り付け作業

三方に果物、野菜（いも）を載せお堂の前の床に置きます。祠堂の前に幟を2本立てます。お祭り終了後、幟と飾りは園職員が撤去します。

（2）ひな祭り飾りの撤去

「蚕影山縁日飾り」を行った日、原家と北村家に飾ってある「ひな祭り飾り」の撤去を行っています。

ひな人形は人形本体と付属品をそれぞれ1個ずつ紙で包み、所定の箱に収納して原家、北村家の所定の場所に保管します。品数が多いので処理するのに時間がかかります。段飾り用の棚の部品は分解し、まとめて束ねて原家、北村家の各々の所定の場所に収納し保管します。

4-5-5

五月飾り

「5月飾り」は男児の成長と出世をお祝いする「端午の節句」に行われる「五月人形」を飾り「武者幟」を立てる行事で、4月中旬から5月中旬まで原家と北村家で展示をしています。



武者人形の段飾り作業



武者幟の竿立て作業

（1）原家内飾り

原家のブツマに「兜」の飾り付けを行います。畳の上に緑色の布を敷き、その上に金屏風を立てその前に「兜」を中心に右側に花菖蒲、左側に木札を置きます。前方に三個の三方を置き、それぞれに柏餅・菖蒲・ちまきを載せます。

（2）北村家内飾り

北村家のオクに3段の「武者人形」を飾ります。まず、棚段の組み立てを行いますが、細部の組み立て方法はさらに写真や図面により手順書の形に纏めてあります。飾り物の部品で痛んでいるものもあるので、細心の注意を払って取り扱っています。上段には幟台に幟など9本を立て、風で台が倒れないように紐と画鋏で固定します。中段には鎧を中心に武士の調度品類を



原家兜飾り

並べ、下段には花やお供え物を並べます。

(3) 北村家外飾り

園職員の指導により、前庭に武者幟3本と鯉幟を立てます。前庭の所定場所の竿穴に鯉幟用の木竿を立て、添木にボルトで固定し、鯉を吊り下げるロープを張ります。武者幟用の竹竿3本は先端に櫛を付け、所定の竿穴に立て、共通の支柱に縛り固定します。これらの作業は力仕事のため、男性が数人がかりで行っています。



北村家武者人形飾り

4-5-6 マンガアライ

(1) マンガアライの飾り付け

「マンガアライ」は田植えが終わったお祝いの行事で、5月中旬から6月中旬まで清宮家の土間で「マンガアライ飾り」を展示しています。

飾り付けに使う材料や道具は、清宮家の土間と隣の農具小屋の下屋に保管してあります。清宮家の土間にムシロを敷き、その上に田植えで使った鍬・マンガ（人用・馬用）・馬鋤・コロガシ・天秤棒と平ざる等の農具やソバと天ぷらと櫛を挿したお神酒徳利を載せた角盆のお供え物を設置します。



マンガアライの飾り付け作業



マンガアライ飾り

(2) 五月飾りの撤去

「マンガアライ飾り」の飾り付けを行った日、「五月飾り」の撤去を行っています。「原家の内飾り」と「北村家の内飾り」は各材料・部品に分解し、壊れたものは補修して丁寧に個々に紙で包み、所定の袋または箱に収納して、所定の場所で保管します。段飾りの棚段は各部品に分解し一括して束ね、所定の場所で保管します。「北村家外飾り」は鯉幟用木竿と武者幟用竹竿を固定してある支柱から外し、倒します。竿の先端に付けた櫛は取り外し袋に入れて北村家の所定の場所で保管します。竿と支柱は北村家の裏の竿置き場で保管します。竿の取り外しは力仕事のため、男性数人で行って

ます。

4-5-7

盆行事

盆行事は祖先の霊を迎え慰める行事で、「盆棚飾り」と「砂盛り飾り」を7月下旬から8月中旬まで、北村家で展示しています。

(1) 盆棚の飾り付け

「盆棚飾り」は北村家があった秦野地方の様式に倣っています。仏壇の前に盆棚を作ります。まず、盆棚周囲に篠竹4本の柱を立て竹の間をしめ縄で結びます。しめ縄にはイネ・ホウズキ・クリ・カキ・サトイモなどを取り付けます。壁に掛け軸をかけ、棚には仏壇にあった位牌や仏具、野菜・果物・ソバ・オハギなどを供えます。これらの飾り付けの作業は主に女性が行っています。



盆棚の飾り付け作業



盆棚飾り

(2) 砂盛りの作成

「砂盛り」は篠竹と土・砂で屋敷の入口に作ります。篠竹は園内の群生場所から直径1cm以上の太いものを十数本取ってきます。このうち4本は盆棚に使います。砂



砂盛り作り作業



砂盛り飾り

盛りの大きさは、一辺の長さが一段目約45cm、二段目約30cm、高さは一段目約30cm、

二段目約 5cm で、周囲を篠竹で丸太小屋のような壁を作り、中に水で捏ねた土を入れて固めます。これに周囲を竹で囲み、土で固めた階段を付けます。砂盛りの土の表面全体に砂をかけて化粧して完成させます。この砂盛りの上段にナスの牛、キュウリの馬を置き、盆花を飾ります。真夏の炎天下で作業をするため、作業時間をできるだけ短くするように作り方の手順書を作ることを考えています。この作業は男性だけで行っています。

4-5-8

十五夜

(1) 十五夜飾り

「十五夜」は秋の収穫物を供えて名月を愛でる行事で、「十五夜飾り」は8月下旬から9月上旬まで、北村家で展示しています。

オクの机の上に供え物を設置します。供え物はどんぶりに載せた団子、皿に載せた豆腐、サツマイモ・サトイモ、柿・栗などとお神酒徳利です。また、花器にススキ、



十五夜飾り付け作業



十五夜飾り

オミナエシなど秋の七草を生けます。「十五夜飾り」は9月中旬、職員が撤去します。

(2) 盆行事の撤去

「十五夜」の飾り付けを行った日、「盆行事」飾りの撤去を行っています。「盆棚」を飾った各材料のうち、レプリカは袋に入れ所定の箱に収納し、所定場所で保管します。生ものは廃棄し、位牌・仏具は仏壇に戻します。

「砂盛り」で使ったレプリカの牛・馬・盆花は袋に入れ所定の箱に収納し、所定場所で保管します。砂盛りで使った篠竹は付着している土を拭い、薪置き場に置きます。土と砂は近くの木の根元に戻します。

4-5-9

刈り上げ

(1) 刈り上げ飾り

「刈り上げ」は稲を刈り上げ、無事作業が終ったことを神に感謝する行事で、「刈り

上げ飾り」は10月上旬から10月下旬まで、北村家で展示しています。飾り付けは簡単で、台（餅のし板）の上に稲束、鎌2本、角盆に小豆粥と榊をさしたお神酒徳利を置きます。

4-5-10 扱き上げ

(1) 扱き上げ飾り

「扱き上げ」は稲をすべて扱き上げた時に行うお祝いの行事で、「扱き上げ飾り」は10月下旬から11月中旬まで、清宮家土間で展示しています。

飾り付けに使用する材料・道具は清宮家土間と隣の農具小屋の下屋に保管されています。土間にムシロを敷き、その上に千歯扱ぎ・稲束・箕・唐箕・唐臼・唐箕・くり棒・万石通し・臼等を置きます。この飾り付けには唐箕などの大きい物や、臼などの重い物を移動させるなどの力仕事があります。

(2) 刈り上げ飾りの撤去

「扱き上げ飾り」の飾り付けの日、「刈り上げ飾り」の撤去を行っています。飾りに使用した材料・道具は所定の箱に入れ、所定の保管場所に戻します。

(3) 扱き上げ飾りの撤去

「扱き上げ飾り」は11月中旬展示終了後撤去し、使用した材料・道具を元の保管場所に戻しておきます。



刈り上げ飾り



扱き上げ飾り

(編集委員 11期 木曜 長谷川)

囲炉裏を囲みながら、むかし話を聞く会が定期的に行われています。毎月第1土曜日には、多摩区ストーリーリングおはなし万華鏡による「万華鏡のむかし話」が作田家にて、奇数月第3土曜日には、みちのくむかし語りによる「みちのく・むかし話」が菅原家にて、偶数月第3土曜日には、大平悦子さんによる「遠野の語り」が工藤家にて、偶数月第4日曜日には、日本民話の会による「お国言葉で語りっこ」が菅原家にて、各地に伝わる民話が語られています。

炉端の会では囲炉裏に火を入れて、参加者に昔ながらの雰囲気の中でそれぞれの言葉での民話を楽しんで頂くお手伝いをしています。



万華鏡のむかし話

(編集委員 9期 火曜 吉田)

